

2011年8月1日(月)

午前 9:20 ~ 9:30

CRT 両毛支局(足利市)にて収録

激しい円高に備えてできることは何か  
- 徹底的な国際化以外、生きる道はない -

開倫塾

塾長 林 明夫

- 1 . 円高がどんどん進んで、国中が大騒ぎになっています。日本は、地域は、企業は、そして我々日本人の一人ひとりはどうしたらよいのでしょうか。
- 2 . (1)円高とは、以前は1ドル 120 円台だったものが、1ドル 110 円台、100 円台、90 円台、80 円台、70 円台と、どんどんドルの価値が下がり、円の価値が上がっていくことを言います。  
  
(2)例えば1ドル 120 円だったところに、1万ドルの車をアメリカに輸出すれば 120 万円で売れたのに、1ドル 110 円なら 110 万円、1ドル 100 円なら 100 万円、1ドル 90 円なら 90 万円、1ドル 80 円なら 80 万円と、日本の企業に入るお金がどんどん減ることを意味します。  
  
(3)そこで、日本でものを作り外国に輸出している企業は、これ以上日本でものを作ることはできないと、日本での生産をあきらめ、外国で生産するようになります。  
  
(4)すると、日本の工場で働いていた人々の仕事が失われて、工場で働いていた人々が他で働く場所を確保できればよいのですが、確保できなければ失業率が上がるということになります。  
  
(5)これを、円高による「産業の空洞化」と呼びます。
- 3 . では、この円高にどう対処したらよいか。
  - (1)日本に本社と研究開発拠点を残し、世界の新興諸国に打って出るという方法があります。
  - (2)外国からものを買ひ、日本や世界の役に立つものやサービスを提供する。
  - (3)外国の人々を積極的に雇用し、日本企業の一員として日本でどんどん働いてもらう。

(4)すべてのことに関係があるのは、外国との関係を強めることです。

4 . おわりに - 我々にできることは何か -

(1)とりあえず全力を傾けて英語の能力を飛躍的に向上させることに尽きます。

(2)すべての職業が外国との関係の強化以外では成り立たなくなるのが超円高です。英語のコミュニケーション能力を全国民が徹底的に身につけるべきです。

(3)自治体は県や市町の「公用語」を日本語と英語の2つにして、地域の国際競争力を支援すべきです。

(4)学校では、小学校1年生から英語を徹底的に教育すべきです。

(5)とりあえず国際競争力の大前提である英語を子どもから大人まできっちりと身につけることが考えられますが、企業や地域の国際化に向けた取り組みはたくさんあると考えます。

(6)既に1ドルは70円台にまで入り込みました。1ドルが80円台前半や70円台に踏みとどまった場合や、60円台、50円台に突入したときに、日本は、県や市町などの自治体は、企業は、個人はどうしたらよいかを真剣に考えたく思います。

以上